

つきたい力

取組みの概要・ポイント



学校HP

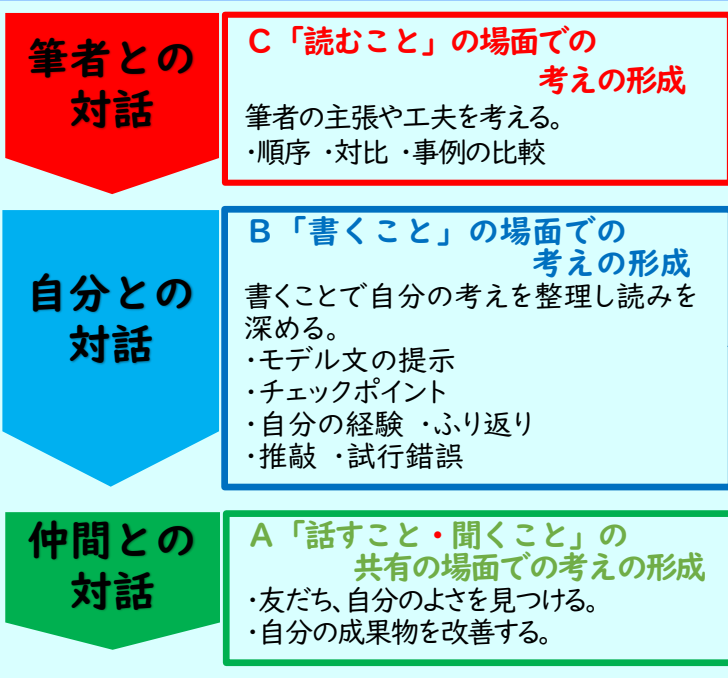
QRコード

集めた情報を基に、目的や意図に応じて自分の考えが伝わるように、書き表し方を工夫し意見をまとめる力

- ①「考えの形成」に至るまでの学習過程を大切にした授業
- ②目標(つきたい力)を達成するためにふさわしい多様な言語活動を取り入れた授業

「考えの形成」に向けた授業計画の逆向き設計とふさわしい言語活動の設定

①「考えの形成」に至るまでの学習過程



読むこと	構造と内容の把握	精査・解釈	考えの形成	共有
書くこと	題材の設定	情報の収集	内容の検討	構成の検討
	記述	推敲	共有	

②つきたい力にふさわしい言語活動
学びの必然性を持ち、主体的に学ぶために

(例) 4年生 『工芸品のみりよくを伝えよう』
〔隣のクラスに自分の選んだ伝統工芸品のみりよくを伝え、一番買いたいと思う伝統工芸品を選んでもらおう!〕

筆者の工夫
「考えの形成」何を考えさせるか 支援の手立てを想定
「精査・解釈」何を読み取らせるか
「構造と内容の把握」何を押さえるか

教師の例文
ゴールのモデルを作成、児童と共有

チェックポイント
・試行錯誤や学習の調整ができる場面を設定
・推敲できる幅をもたせた原稿用紙を使用

再構築・自己調整の場面
前よりよくなった
書いてよかった
書けてうれしい

自分事として考える
考えた い 伝えたい
何を考えさせるか
さあ書こう!

ことばの力を高める取組み

新聞ワーク・国語活用プリント・学習用語掲示・ことばのいずみ配付活用・400字で言わせて!作文コンクール・俳句・並行読書

取組みを通しての子どもの変容

- 1年を通して書く意欲や主体性が高まってきた。授業で学んだことを普段の生活の中で活用できるか考えていた。
- 授業づくりに関するアンケート項目で肯定的な回答が上昇した。「話し合う場面で自分の考えを深めたり広げたりしている。」(4月:72.4%→12月:76.2%)
- 全国学力・学習状況調査の平均正答率「思考・判断・表現」で全国・大阪府を上回る結果であった。「読むこと」「書くこと」の正答率が高く、特に記述式問題の正答率が高かった。
 - ・自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して書く問題 → 平均正答率73.8%
 - ・物語を読んで条件に合わせて自分の考えを書く → 平均正答率83.3%
 - ・記述式問題の正答率が年々向上 (R4年:44.3%→R5年:50.5%→R6年:78.6%)
 - ・無回答率が減少。(R4年:13.8%→R5年:11.3%→R6年:3.6%)